

- 1 銅像「航空」
- 2 風洞実験室(1号館)
- 3 時計台(13号館)
- 4 試作工場(17号館)



12

空への道

江戸時代、この地一帯は、将軍の御狩場として動物の捕獲と樹木の伐採は禁じられ、自然保護地区のごときであった。明治にいたり、本学農科大学の農場として開墾された。関東大震災を機に駒場での再建が図られた本学航空研究所が、昭和5年(1930年)移転を完了し、以後、日本の航空と宇宙開発の研究センターの役割を果たす。しかし、平成元年(1989年)、転出した。現在も残る航空研時代の時計台や風洞実験室などは、建築的にもすぐれ、日本の工学の発展を語る貴重な歴史遺産となっている。